

Diagnostic accuracy of transient hepatic attenuation differences on computed tomography scans for acute cholangitis in patients with malignant disease

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉下, 敏哉 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31331

主論文の要旨

Diagnostic accuracy of transient hepatic attenuation differences on computed tomography scans for acute cholangitis in patients with malignant Disease

悪性疾患に発生した急性胆管炎の CT 動脈相による診断能の検討

東京女子医科大学消化器外科学教室

(主任：山本 雅一教授)

杉下 敏哉

Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences Volume 21, Issue 9 2014

Page 669-675 に掲載

急性胆管炎の診断の際、Dynamic CT の早期動脈相において胆管周囲の肝実質が特徴的に濃染することは Transient hepatic attenuation (以下 THAD) と表現され、さまざまな論文に引用されている。今回、われわれは悪性疾患における急性胆管炎の THAD による診断能の検討を行った。2006 年～2011 年までに当施設にて胆道ドレナージを行い、かつ胆道ドレナージの 3 日以前に CT 動脈相撮影を施行した悪性疾患 123 例を対象とし、THAD による急性胆管炎の診断能及び THAD と急性胆管炎の重症度との関連性を検討した。

急性胆管炎は 45% の症例にみられ、THAD による急性胆管炎の診断能の感度は 93%、特異度は 39% であった。胆管炎群のうち、胆管周囲の肝実質がはっきりと濃染され THAD として認めたものは 64%、肝実質がわずかに濃染され THAD として認めたものは 29% であり、THAD を全く認めなかったものは 7% であった。また、胆管炎群において、THAD の CT 所見分類と急性胆管炎の重症度、及び THAD の所見と急性胆管炎の重症度には相関は認められなかった。

THAD は急性胆管炎の診断に有効であると考えられた。